

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

おはようございます。議長より発言の許可をいただきましたので、8番石丸、ただいまより一般質問を始めさせていただきます。

今回私は、市長に、市長の政治姿勢について、2つ目、FB良品について質問し、3項目といたしまして、教育長に図書館について質問をしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず、市長の政治姿勢についてお尋ねいたします。

市長は演告で、フランスのフリーペーパーが選んだ「明日の日本をつくる50人」に選ばれたことをお話しされました。この50人には、橋下徹大阪市長やソフトバンクの孫正義社長も選ばれているようです。武雄市、あるいは武雄市長がさらに注目されることにつながる効果があったのではないかと思うところです。

市長はこれまで全国ネットのテレビ番組などにも出演され、武雄市の知名度は樋渡市長ともども上がっているのではないかと思う次第でございます。そうした効果があつてか、市長は全国各地で講演をされているようです。講演の費用、特に旅費などは依頼者が負担しているものと思います。本年1月21日にも徳島大学で講演を行っていらっしゃいます。この講演、市長は公務として行われたのか、政務として行われたのか、市長の認識をまず伺います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、でも石丸議員から褒められるとは夢にも思いませんでしたよ。もう率直に言って、やっぱりうれしいですね。でも、私が例えばフランスのフリーペーパーで日本の50人に選ばれたりとか、さまざま今選んでいただいていますし、これからも幾つか選ばれるというのは聞いておりますけれども、それもこれも石丸議員さんを初めとする議会の皆さんたちのおかげなんですよ。それと市民のみなさんたちのおかげです。そういったことを忘れずに私は市政運営をしなければいけないと思っています。私は別に有名になるのが目的じゃありません。芸能人でもお笑い芸人でもありません。ですが、私が知られるということは、私の肩書は武雄市長ですので、すなわち自動的にイコール武雄市が知られることになるということです。

私は石丸議員と違って出無精ですし、おくてであります。ですので、最初こういうふうに取り上げられるというのは、実は非常に違和感があつたんですけども、今はもう開き直っています。広告塔として、私がそういう資源の一環として活用をしていただければ、それはもうどんどん出ていこうということを思っています。

答弁に入りますけれども、これね、政務と公務、あるいは事務と政務というのはなかなか難しいんですよ。これ以前、松尾初秋議員からも5年ぐらい前に御質問があつたときに、すごく考えて申し上げたんですけども、私、例えばね、やめたからといって——やめたとい

うか、やめませんよ。一日中ね、例えば皆さんがどう見るかと、私はプライベートでやっても、これは武雄市長がやっているというふうに捉えられる。私は武雄市長としてやっても、いや、これはプライバシーかもしれないって、なぜそういうことが起きるかという、市長というポイントが事務の頂点であると同時に政務、政治家としての役割がこうあるので、それを業務によって分けるというのは、すごくやっぱり難しいんですね。ですので、それをあえて、それを前提に申し上げますと、今回の徳島大学、いろいろ問題になりました。世の中もお騒がせしました。NHKにも御迷惑をかけました。これについては公務であると認識をしております。これは事務方にそういうふうに整理をしてもらって、今現時点では公務と。ただし、ブログでは、あの当時、公務プラス政務かなと思っていたんですけども、講演そのものはもう公務というふうに認識を統一した次第であります。

交通費、宿泊費等は依頼者が負担をしておられます。講演は、先ほど申し上げたとおり、私が行くことによってトップセールスの立場と武雄市をより知ってもらうと、一番大事な話は、武雄市でしゃべりますと言っています。ですので、今回また徳島からも多くの皆さんたちが、図書館の開設をお聞きになるんだと思うんですけども、お越しいただくということも聞いておりますし、常に私は武雄市の魅力を自分の言葉で語るのと同時に、これはちょっと申しわけないんですけども、時間があれば被災地に対して、先ほど山口昌宏議員からも御質問がありましたけれども、被災地に目を向けてほしいということもあわせて伝えております。

ですので、繰り返しになって恐縮ですけども、徳島大学の講演については公務であるというような認識をしたいということを思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

今、NHKの話が出ましたが、徳島大学の講演が終わってから、しばらくたった2月16日の市長のブログで、徳島大学で講演で使用したNHK番組について、NHKで無断使用したことが書かれていました。番組の2次使用について申し出をしていなかったということで謝罪の文が述べられております。市長はおわびをされていますが、講演会の時点で、許可を受けずに放送の、番組の2次使用を行うことが問題になるという認識があったのかなかったのかということを知りたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、一介の人口5万人の首長ですから、その何というんですかね、手続をしなきゃいけな

いというのは思っておりましたよ。ですが、これがこれほどの問題になるというのは、ごめんなさい、これは私の識見不足というか、人格の不足の部分なので、これはまた改めて御迷惑をかけたNHKの皆さん、関係者の皆さんに、これは率直におわびをしたいと思っています。

やっぱり著作権て大事なんですよね。大切なんです。ですので、それを公人である私が、軽はずみとはいえ、そういうふうにしてしまったということについては、これはもう本当に申しわけなく思っていますし、今後こういうことがないようにしていきたいなというふうにも思っています。

ですので、今ブログとかフェイスブックでは、主に佐賀新聞社さんと西日本新聞社さんを活用させてもらっているんですけども、これについてもきちんと申請を事務方からさせていただいて、許可をいただいたものについてしているということは申し上げたいなというふうに思っております。まず隗より始めよ、反省はやっぱりきちんと生かすということはまた引き続き率先してまいりたいというふうに思っていますし、ぜひ石丸定議員さんの幅広い識見で叱咤激励をしていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

市長は今後も講演の依頼を受けられると思います。行政視察に市長みずからも出席され、お話をされる機会も多いと聞きます。武雄市を宣伝するにしても、ぜひ今おっしゃられたことを肝に銘じてお話をさせていただきますようお願いいたします。次の質問に移ります。

続いて、F B良品についてお願いいたします。

今回の市長の演告の提出議案事項説明書によりますと、一昨年11月7日に単独で始めたF B良品について、全国の自治体の参加によって市長が目指す通販の第3局が目前であると推察されますが、市民の皆さんからF B良品を市長が頑張って地元の物産を全国に流通するようにいろんなところで公演やアピール活動をしておられるけど、システムはどうなっているのか、自分たちはどうかかわったらいんだらうかという声をお聞きます。どのようなシステムで組織運営をなされておるのか、担当部局に市民の皆さんが理解できるように説明をわかりやすくお願いしますと通告しておりますので、注文方法や決済の流れ、商品の選定の仕組みなどを、できれば画像をもとにして説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

石丸議員のほうからF B良品についての注文、あるいは決済の流れというふうなことで説明をということですが、注文につきましては、F B良品ホームページより申し込みを

行いまして、その購入情報がシステムの管理会社であるシーズを通じて出品者、あるいは宅配業者へ連絡が行きまして、そこから商品が短期間のうちに注文者のもとへ配達されるというふうな仕組みになっております。（発言する者あり）

それによって、代金につきましては、カード及び代引きの決済となっております、売り上げた商品の代金はカード決済手数料及びシステム手数料、それに送料等を差し引いた額をシーズより生産者、出品者に支払われるというふうなことになっております。

商品の選定の基準としましては、武雄市産であるもの、それから武雄市産の原材料を使用したもの、それから武雄市とゆかりのあるものというふうなことで、出品商品は担当職員が掘り起こしたり、市内の業者の方が直接申し込まれる場合も多く、幅広く採用しているところであります。

〔市長「補足します」〕

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません。本来ならね、ちょっと画面を用意しておくべきだったと思うんですけども、ありていに言うところこういう感じなんです。要するに、御注文された方が、ちょっとテレビがありますので、こっちを指し示し、すみません。（資料を示す）御注文された方がF B良品に注文をされるということで、これは今F B良品のコンソーシアムの代表構成員の株式会社シーズがそれを受け取って連絡を出品者にするのと同時に、今、佐川急便さんと組んでやっております。佐川急便さんと組んでやっておりますので、同時にこの連絡が行って、あとは出品者さんと佐川急便さんで集荷と出荷のやりとりを行うということで、佐川急便さんのほうから御注文者様に商品の配送を行うということで、これは通常の通販と同じような流れになります。

先ほどちょっと答弁がありましたけれども、出品料は無料にしています、出品者様から出品料は。ただし、いろんな事務手数料がかかりますので、これについては売価の5%ですよ、5%が株式会社シーズさんに事務手数料として入ることになってはいますが、でき得ればこの9月以降ね、9月以降、この事務手数料の部分ももうゼロにしたいと思っています。

そういう意味で、武雄市の出展者、出品者の方々は、もう本当の意味の楽一楽座、これが僕は行政の支援の一つだと思うんですよ。やっぱり地域の所得向上をみんな言います。言うけれども、なかなかやっぱりうまくいかないんですね。ですので、我々はいろんな御批判もこれからあろうかと思うんですけども、通販という、これから通販の時代が始まると思うんですよ。通販の、大通販の時代が。そこにやっぱり行政として参画をするということで私たちは判断をして、さまざま御説明をしながら進んでいます。

ただ、きのうも答弁申し上げましたけれども、やっぱりインターネットだけじゃ弱いので、今度カタログ、カタログをつくって、これはちゃんと公募をして、できればお歳暮の時期に合わせてそのカタログを全戸配布したいと、市報とともに全戸配布をして、電話番号、ネットが使えない方でも、使わない方でも電話番号でそこに注文していただくと、今テレビショッピングみたいに自分が御購入したりとか、東京にとか大阪にいらっしゃるお孫さんとかお子さんとかに送れるということをしたいと、究極の目的は、あくまでも市民所得の向上です、市民所得の向上。ですので、そういった観点から我々は制度運営をしていっているところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

F B良品の概要については、昨日の質問の中にもございましたが、現在の武雄市の参加事業者の数や現在までの売り上げの推移はどうなっているのでしょうか。

月々の経費を換算しますと、事業効果というよりも、今のところ、武雄市のPR効果のほうがより大きいというふうに見たほうがよろしいのでしょうか。

また、参加条件や出店の選考の仕組み等については商工流通課で決められておるのでしょうか。

先日、商工会の指導員さんとお話をしたら、商工会としてもお手伝いができるなら協力したいというようなことでしたが、商工会や商工会議所の連携についてどのようになさっておられるのか、お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

今、F B良品の参加加盟自治体につきましては、昨日、川原議員さんのほうにもお答えしましたが、武雄市を初め、薩摩川内市、陸前高田市、大刀洗町、燕三条地場産業振興センター、那須町、南砺市、多可町、石垣市、宇多津町、10自治体でありまして、次年度以降も参加自治体がふえていく見込みであります。

参加の条件にしましては、F B良品の趣旨に賛同する自治体、あるいは団体としておりまして、全国のF B良品運営協議会を発足させて運営全般について協議会で決定していく予定としております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

多分お尋ねは武雄市のことをお尋ねだったと思うので、それは私からお答えしたいと思うんです。なかなか執行部も緊張するんですよ。ですので、ちょっと私から答弁いたしますけれども、武雄市の売り上げは、多いときで今100万円を超しております。出品数が、大体入れかえをしていますので、70前後今出品をしているんですね。主な売れ筋は、やっぱり、何というんですかね、そこでしか手に入らないもの、いなかレモン売れましたね。いなかレモンは売れた。あとF B良品でしか買えない納豆です。武雄産の大豆を、これは答弁もしましたけど、茨城県の日立市の菊水食品さんをお願いをして、F B良品限定の納豆で売るということで、こういう通販ならではの企画なんですよ。ですので、そういったものがよく売れます。やっぱり果物、農産物はよく売れますね。それとあわせて、宮地ハムも売れます。これは一旦買った人がやっぱりおいしいということでリピーターになると、あと、おいらんたんのカレーですね。これも売れますね。ですので、やっぱり売れるものはリピーターがついて、この人たちが口コミで宣伝をしていただくものについてはやっぱり売れるんだらうなというふうに思っていますし、仮に、きのう答弁しましたけれども、売れない焼き物についても、それは通販じゃなくて、お越しいただいてから窯元、あるいはお店でお買い求めいただくということで効果を発揮しているんじゃないかなということは思っております。

選定の仕方については、今うちの職員が最初のときから企画をして一緒に売り込んでいますけれども、もうちょっと物が大きくなってきたので、もともと選定委員会というのをちょっとつくっているんですよ、商工会に入っていたりとか。ですので、そこでもう決めていくような段取りになっていくんだらうなというふうに思っていますし、ですので、武雄市商工会議所並びに商工会にお願いがあるのは、2点ちょっとお願いがあって、1つは、参加のお店にぜひ出品を促してほしいということと、情報共有を、こういういいものがあるよといったことを事業共有をぜひしていただければありがたいというふうに思っています。

こういう形で、今までは、最初のところなんで、行政主導でいきましたけれども、もうそろそろは商工会並びに商工会議所のお力をかりながら、みんなで進めていこうという段階に来ていますし、静岡県の三島市が、ことしの夏までにF B良品三島って始めるんですよ。ここがどうやっているかという、三島市の運営協議会に商工会議所、商工会、行政、J A、いろんな方々が入って、そこで掘り出すとか決めていこうというようになりますので、恐らくそういう意味で言うと、三島型ですよ、が一つの流れになっていくのかなというふうに思っています。よく行政主導だとか市長主導だとか言われて批判も受けましたけど、最初はやっぱり仕方ないですよ、最初は。ですので、ただ、ずっとそれは行政主導ばかりやっていると非効率、不効率にもなりますし、これは僕はNHKの番組でも言いましたけれども、いずれは民間の皆さんたちにきちんとバトンタッチをしていく時期が来るだろうというふうに思っていますので、今はその過渡期にあるのかなというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

全国の自治体の状況は、先ほど部長からお話がありましたが、武雄市の場合と、今、全国展開をされているサイトですね、このサイト自体は武雄市が管理されているのでしょうか。全体的なサイトがありました、F B良品のサイト。この管理運営は武雄市としてされているのか、また、第三セクター方式でされているのか、そこら辺の説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

F B良品については、先ほど部長から答弁いたしました首長クラスから成るF B良品の協議会を立ち上げます。正式にはもう少ししてから立ち上げますけれども、今その時点で、フェイスブックにもいろんなグループをその中につくってございまして、こういうふうにしたい、ああいうふうにしたいというのを意見集約を武雄市のほうでまずやっています、F B良品全体のね。システムはシーズさんが、株式会社シーズが行っていますので、こういうふうに変えてほしいとか、こういうふうにしてほしいというのは私どもが担当の、この場合は古賀敬弘ですけれども、そこからシーズのほうに依頼をするという流れになっています。意思決定については、これから、規約もできましたので、F B良品の協議会、全国の、今10で、ことし中に多分20から30になるF B良品協議会で大卒の意思決定をし、そこに幹事会をぶら下げます。幹事会をぶら下げますので、もう少し詳細な具体的なことはその方針にのっとって幹事会が決めて、そのシステム的な運用はその協議会並びに幹事会からシーズが受けて、それを正確に軌道させるということになります。私どもの意思決定については、今そのようにしております。

ただ、まさかこれがこんなになると思っていなかったんですよ、これいろんなところで言っていますけど、最初しゃれで始めたのが、もうしゃれで済まなくなって、きょうの佐賀新聞に嬉野市さんがF B良品については慎重と書かれるぐらいになったって、これはすばらしいことだなと。ですが、私どもは別にF B良品に入る入らないじゃなくて、その近隣の市や町とはこれまで以上に一緒に連携をして打って出ようと。

ですので、話は飛びますけれども、例えばシンガポール進出にしても、嬉野市さんとか伊万里市さんとか、特に近隣の市や町とは連携をしてやっぱり動いていきたいなというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

今おっしゃられたF B良品協議会というのと、前立ち上げたF B良品ホールディング協議会、その違いをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは重要な指摘なので、質問をしていただいてありがたく思っているんですがね。F B良品、ホールディングスと言ったときに、やっぱりわかりにくいというお話があったんですよ、わかりにくいって。ホールディングスというと何か持ち株会社というふうになって、英訳するとそうですよね。ですが、その当時、適切な言葉が実は思い浮かばなくて、最初からこれはコンソーシアムとか協議会にしとけばよかったと思っていますので、今後そのホールディングスという言葉は、最終的な意思決定は今後しますけれども、私自身会長なんで、考えは、もうホールディングスという言葉はやめます。ちょっともうこれは紛らわしいから。ホールディングスは格好いいかなと思ってやったんですけどね。ちょっと混乱、また混乱しそうなんで、先ほど申し上げたとおり、最上級の意思決定はF B良品の協議会、運営協議会ですよね、協議会で、実務的なものは幹事会と、それで、システムの稼働についてはシーズさんが行うということになります。その協議会の中は、もう首長クラス、首長のみというふうにしていくということにしていきたいなというふうに思っています。ただ、これは今、佐川急便さんとか、場合によってはヤマトさんも入りますので、そこには広くオブザーバー参加を求めていきたいというふうに思っております。よろしいでしょうか。

〔8番「はい」〕

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

今回の演告で述べられた武雄市の財政にお願いすることなくF B良品の加盟自治体からいただいた貴重なお金でシステム開発とか営業とか広告等を打ってまいるたいということでしたが、この全体的な協議会、こういう各自治体の持ち出しですかね、それを利用して行っていくということでもよろしいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的にそのように考えております。

先ほど私も演告で申し述べましたけれども、加盟自治体からいただく、月々いただく貴重なお金で、例えばシステム改良に充てる、広告を打つ、佐賀新聞社さん、西日本新聞社さんにももう少し加盟自治体がふえれば打とうと思っていますが、あるいはこの特集の雑誌、冊

子も今つくろうと思っているんです。これちょっと相手がある話なので、出版社の名前は言えませんが、恐らくみんながびっくりするような雑誌社と組んでF B良品のカタログを冊子として出すと、その出し方は恐らく15万部ぐらいになります。そういったもろもろについて、単独の自治体だけじゃ無理なんですね。武雄市だけでもとても無理。ですので、幅広く、仕事も割り勘、人生も割り勘という私の根本哲学に基づいて、やっぱり少なくとも出して、それで、先ほど申し上げたとおり、システム改良、広告、あるいは営業等々については、その貴重ないただいたお金で運用をします。

ですので、そういう意味でいうと、武雄市に関して言えば、最初一般会計に入れようかなと思ってたんですよ、一般会計に。多分僕そういうことを言っていたと思うんですけども、それは多分加盟自治体がそんなことするなよということになると思いますので、それはF B良品の協議会で再度確認をして、このように使っていくという意思決定をもう一回ちゃんとやろうかなと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

では、武雄市の立場としては、その協議会をいろんな面で支援していくという立場ということによろしいですか。

〔市長「はい」〕

わかりました。

今後の展望につきましては、シンガポールに現地の事務所を置きたいとか、職員の派遣も考えるというきのうの答弁でしたので、この点に対しては省略いたします。

続きまして、図書館について教育委員長に伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

教育委員長じゃない、教育長。

○8番（石丸 定君）（続）

すみません、教育長に伺いたいと思います。

今回の図書館の改修事業は、企画段階や事業実施段階では、市長が言われるところの世界有数の企画会社、武雄市図書館・歴史資料館の指定管理者であるCCC、カルチュア・コンビニエンス・クラブのノウハウを活用するとか、CCCが運営する東京の代官山蔦屋のイメージやコンセプトを取り入れるとの名のもとに、企画会社CCCスタイルの武雄市図書館づくりが行われているように思いますが、スピード感も大事ですが、それ以上に行政を進める上ではもっと丁寧な市民への説明責任を果たすべきではないかと私は思います。

昨年11月15日に図書館ボランティアさん方などに限られた範囲での市民説明会が行われたようですが、その後の説明会等はなされたのでしょうか。

イメージ選考の説明だけで具体的な施設の改修等の内容の説明が必ずしも十分になされておらず、市民に対して説明不足ではないでしょうか。

確かに、議会においては12月定例会に蘭学館の閉鎖や企画展示室の名称の改称の条例の議論はありましたが、しかし、市民向けには11月の市民説明会の折の施設の改修イメージ段階での説明しか行われていないと思いますが、図書館ボランティアなどの関係者や市民の皆さんにもっと具体的な図書館の改修の中身の十分な説明会を行い、図書館ボランティア関係の皆さんの意見を取り入れ、市民みんなの図書館をつくるために公共図書館の本来のあり方についてもっと広く慎重に議論すべきだったと私はと思いますが、教育委員会として教育長はその後どのような対策を行われたのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

御指摘のとおり、11月に市民の皆さんに向けては説明会を行ったところでございます。その後ですけれども、12月議会において、市民の皆さんを代表されているこの武雄市議会においてきちんと御説明をさせていただいた。その後も、市報、あるいはホームページ等を通じて広報してまいったということで御理解をいただいたというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私ね、腑に落ちないのは、よく説明不足って、錦の御旗みたいに言われるんですけど、集会のときもそうだし、一般質問でも、我々はいつでも開催したら行きますよって言って、これはお名前言ってどうかわかりませんが、例えば吉川議員から、ぜひ説明をしてくれということがありましたので、そこには数十人お集まりいただいて、そこでいろんな説明をしましたよ。ですが、石丸定議員さんからは何ら説明会をしてほしいという要望もありませんでしたし、実際私どもに関しては、前の議会でも言いましたけれども、やっぱりこれは狭い市なので、みんな知り合いなのでこういう説明会に私が来たとなると、なかなか厳しいので、説明会をしたこと自体を伏せてほしいという要望があったので、これをもって非公式の説明会と呼ぼうと思っているんですけども、それは数度ありました。私も時間があがる限りそこには参りました。参って、そこは賛成の方もいらっしゃれば反対の方もいらして、聞けばよくわかったということを書いて、先ほど部長から答弁があったように、皆さん方に説明するということが、これケーブルテレビやユーストリームでも流れていますからね、それが我々の最大の説明責任なんです。ですので、余り議員がその説明責任というのを我々におっしゃるといことは、ある意味、僕は責任放棄だと思わざるを得ません。

ですので、それは余り議員としては、市民がおっしゃるのは仕方ないと思うんです。です

が、一般質問の当事者が、あるいは質問をされるわけだから、それが責任放棄というのは自分の仕事をしていないのと同じだというふうに言わざるを得ません。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

今回の図書館の改修費は私が予想した当初の計画よりも高額、結果的に大きく膨らみ、市が9月補正予算で4億5,000万円を予算化し、CCCが行う改修事業費が約3億円と言われております。この膨大な改修費は11月から2月末までの非常に短期間に行われましたが、改修工事は、9月議会での補正予算の段階の当初の計画どおり進んだのでしょうか。

当初残ると思っていた蘭学館などの歴史資料館ゾーンが12月議会では突然常設展示がなくなるという変更が行われたりしましたが、それ以後のほかの改修工事の変更があったのでしょうか。

大きく膨らんだ改修工事の教育的投資効果を教育委員会としていかが見ておられるのでしょうか。

また、雑誌、文具の販売コーナー、コーヒーチェーン「スターバックス」の店舗設営、CD、DVDのレンタル事業に対する賃貸契約はどうなっているのでしょうか。前回の委員会の質疑で交渉中ということでございましたが、賃貸料金と商業スペースの面積がどのようになっているか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

予算の関係ですけれども、9月議会で全体として4億5,000万円の予算をいただきまして、これを執行してまいったというところでございます。

それから、12月議会で蘭学館の部分につきまして申し上げましたけれども、これにつきましては、賃貸のスペースということでございますので、武雄市の予算とは関係なく、CCCのほうで負担をしていただくという形になっておりますので、それ以降の変更は特にないということでございます。

投資効果につきましては、これからまた出てくるというふうに思いますし、現在でも視察の方が非常に多いというようなこともございますし、観光面、産業面、そういったことで効果が出てくるのではないかとというふうに考えておるところでございます。

それから、CCCにお貸しをする場所ですけれども、全体としましては、平米でいいますと745平米になります。これにつきましては、年間で約600万円というふうに試算をいたしているところでございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

教育効果についてのお尋ねでございますが、3点ほど考えております。

まず1つは、全国の公立図書館が非常に課題としております、今図書館から遠ざかっている方々の関心を高めることができるのではないだろうかということが第1でございます。

アンケートで、いみじくもこの70%という数値が出てきたわけですが、期待の声でございますが、実際にはやっぱり二、三割の市民の方が利用されているというような全国的な状況の、そのところに大きな変化は考えられるんじゃないかということです。

それからもう1つは、昼間時間に余裕のある人の図書館になっている部分、これが予定しております9時から9時、365日ということで、大きく期待できるのではないかということ。

それから、これまでいろんな頑張りはしてきましたけれども、いろんなサービス面での開発と意欲と、意欲的な開発と、そういう面で官民連携した対応という教育効果が考えられるのではないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

1つ追加をさせていただきたいと思います。

先ほど、武雄市の予算につきましては4億5,000万円ということで、昨年の9月議会でいただいたわけですが、財源につきましては、そのときには公共施設整備基金を4億円、それから一般財源を5,000万円ということでお願いをいたしておりまして、公共施設整備基金につきましては、わかりやすく申し上げますと、武雄市の貯金でございます。これを取り崩して充てるということでございましたので、武雄市の財源が4億5,000万円必要だったということでございますけれども、国、県のほうともいろいろ折衝をいたしまして、合併特例債が使えないかということで話を進めてまいりましたけれども、このほど2億7,500万円を合併特例債を使えるということになりまして、これは御承知のとおり、国のほうが後年度に交付税で70%を措置してくれるということになりますので、計算上は国が約2億円を負担してくれるということになりましたので、その分、武雄市の負担が減ったということになります。

いずれにいたしましても、今回、その2億7,500万円の合併特例債を差し引きましても1億7,500万円という一般財源が必要になってくるわけですが、これにつきましては、今回の指定管理制度に移行することに伴って、年中無休、それから、一日でいいますと、9時から9時まで開館ということになりますと、大体経費が1.6倍ぐらいになりますので、2億3,200万円ぐらいの経費が必要になるわけですが、これを指定管理でお願いします

と1億1,000万円ということになりますので、残る金額が1億2,200万円ということになります。

先ほど申し上げました一般財源というのが1億7,500万円になるわけですがけれども、大体1年半ぐらいで取り戻すぐらいの金額になるのではないかというふうに考えておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

特例債の話は今回の予算のほうで入っておりますので、そのことはちょっと。

ということで、CCCの約3億円の投資の内容は、雑誌文具販売コーナー、スターバックスコーナー、CD、DVDのレンタル事業ということでよろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

そのようにお伺いしております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、ちょっと補足をすればよかったんですが、ごめんなさい。さっき武雄市の図書館ですよ、通称エポカルだったんですがね、これはつくってからもう12年か13年たつわけですよ。そうなったときに、議員は御存じだと思うんですけども、雨漏りであるとか、あるいは電気系統がちょっと一部おかしくなっていたりとか、これは仕方ないですよ。やっぱり10年以上たつと急に経年劣化というのは表に出てまいりますので、そういった中で、改修をしなければいけなかったということもあります。ですので、これは指定管理者に、CCCにお願いするどうこうの話じゃなくて、その図書館には所要の巨額なお金を投じなきゃいけなかったということについてもぜひ御理解をしてほしいと。それもあわせて、今回、100%ではないですけども、あわせて行っております。修復も行っておりますので、それはCCCの皆さんたちに感謝をしたいということを思っておりますし、五光さんであるとか、いろんな地元の建築会社さんたちにも非常にお世話になりました。本当に物心両面にわたって、こんなによく仕事をしてくれるのかということについてもね、これはこの場をかりて、あわせて感謝を申し上げたいなというふうに思っております。

したがって、井上一夫さんにその5億円を、市民の税金を何か無駄に使うということが書かれてあって、（携帯音）今、携帯が鳴っているところであるんですけど、議場って結構やっぱり響きますね。

ですので、それはそんなことないんですよ。僕らも優先順位をしたときに、無駄に使うとかなんとかというのは全然ないですので、そこもぜひ誤解があれば、そこは解いてほしいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

市長、今の答弁だと、CCCの3億円が改修の、雨漏りとかなんとかに使われているということですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、それは市から出した分の中なんですね。CCCの拠出分というのは、先ほど部長が答弁したとおり、その、販売スペースの、スターボックスを含めてね、という部分で、ちょっとさらに追加しますと、今回情報化、デジタルサイネージであるとかiPadを大量に入れるんですよ、図書館の中に。これについては、指定管理者になる、ならないは別に、もともと8,000万円というのは投じる予定でしたので、そう考えると、我々は正直言って、これはちょっと言葉ががさつで申しわけないんですが、得していると思いますよ。それでこれだけの、これは黒岩幸生議員とか吉川議員からも再三ありましたけれども、本来行政がやったときのサービスに比べて、もう1億円以上、年間安くなった上に、サービスは365日、朝9時から夜9時まで行われるということからすれば、それは本当に格段によくなっているということで、そう思っているでしょう、もう。ちょっと逆にお伺いしたいんですけども、もういいでしょう。

要は、僕らは誠心誠意説明を尽くしてきたつもりでいるんですよ。誤解の部分というのは、今回の答弁で僕もOSを変えて丁寧に御説明しましたので、納得されたかどうかお伺いしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

納得したかしないかは、そりゃ別に。

今回の改修では、本来附帯施設であるべき指定管理者CCCの商業的利用施設の経営が優先されて、本来の図書館の機能、みんなの図書館が十分に発揮できないのではないだろうかということを危惧しているわけです。

CCCは、3億円投資の改修のために図書館利用の対象を全ての市民ではなく、コーヒーを飲んだり雑誌を買ってくれる商業的利用施設のお客さんである若者を中心とするサービス

に偏った運営、経営になり、販売重視のために次第に社会的弱者と言われる子どもやお年寄り、障がい者等、すなわち図書館で金を使わない利用者が使いにくい施設になっていくのではないかということを危惧しておるわけです。教育委員会としてその点どうお考えでしょうか。読み聞かせの部分はどうなるのか、開架スペースは広がるが、閲覧、読書スペースはどう広がるのか、伺います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

今回の指定管理制度への移行に伴いまして、図書館サービスを従前にも増して向上させるというのが目的であるわけですね。今回、CCCと武雄市が協定書を結んでおります。この中で仕様書がありますので、従前のサービス、いわゆる今言われました読み聞かせのサービスなどですね、こういったものは、そのまま引き継いでいく、さらには充実をさせると、市長からもございましたとおり、スペースにつきましても1.4倍ぐらいに広がるというようなこともございますし、ボランティアの皆さんにもこれまで以上に協力をしていただくということで、これは私どもとCCC、それからボランティアの皆様方とも話し合いが進んでいるところでございますし、それに加えて、9つの市民価値ということでサービスを向上させていきたいというふうに考えておりますので、ぜひ新しい図書館をごらんいただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私ね、石丸議員さんと議論を闘わせているときに、大体わかってきたことがあるんですよ。本当にいいことをおっしゃるときというのは、原稿に目を落とさず自分の言葉でお話をされると。だけど、誰が書いた原稿か大体拝察はできるんですが、やっぱり政治家として……

〔8番「ちょっと」〕

ちょっと待ってください、答弁中です。政治家として、やっぱり僕も答弁書なしでしゃべっているんですよ。ですので、そこをぜひ議論を闘わせましょうよ。

その上で僕は申し上げたいのは、許しがたい発言があったのは、私を誹謗中傷されるのはいいですよ、それは構わない。しかし、CCCが今本当にいい図書館をつくらうと思って頑張っているわけですよ。それなのに、あなたは社会的弱者が排除されるであるとか、あるいはさっき、正確にはちょっと僕は申し述べることはしないけれども、できないけれども、そういうふうに排除されるということについては、それは実際あなたが4月1日以降、我々の答弁を聞いた上で、見てから、そう思うのであれば、おっしゃるべき話なんですよ。それが僕は一般質問だと思いますよ。

ですので、私とすれば、F B良品はあんなにいい質問をされたのに、図書館になると何でこんなに急変をされるかなと思うのは私だけじゃないと思いますよ。

私も冒頭言いましたように、性格を今変えています。性格改造計画なんですよ。ですので、そこはやっぱり立場の違いはあれども、胸襟を開いて市民のためになる、何か一生懸命頑張っている人たちを落とし込めないような（発言する者あり）いや、落とし込みですよ。ですので、そういう発言を、僕は石丸定議員さんだったらできると信じていますので、ぜひそういう意味で、同じ目線で政治家として議論を闘わせていきたいなど、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

ちょっと議長いいですか。今、市長の誰の原稿かわからないとおっしゃいましたけど、自分の原稿ですよ。

〔市長「はい」〕

私はこういうことを聞いてもらいたいと、市民の意見、皆さんの意見をできるだけ正確にお伝えしたいということで、間違いがないように原稿を読んでいます。それを読まないで、またいろいろ言われるっですもんね。そうじゃないですか。だから、人の原稿をどうのこうのというのは撤回してもらいたいと思いますよ。（「そうそう」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

いやいや、撤回ではなくして、私は自分の原稿を読んでいますよと、あなたの反論でいいわけですよ。討論を闘わせていますので。それが物すごいきつい言葉とか、ふだん使用していない言葉だったら撤回を求めますよ。しかし、私は、いや、自分の原稿を読んでいますよと石丸議員の反論だけでいいわけですよ。ですから、それを言ってください。（「質問者が言いよっけん、よかろうもん」と呼ぶ者あり）（発言する者あり）8番議員、質問を続けてください。8番石丸議員（発言する者あり）静かに。

○8番（石丸 定君）（続）

がやがややかましくて、ちょっとわからんごとなるですもんね。すみません。それでは、もういきます。

今まで市から図書館の内容ですかね、イメージ図というのを見せてもらいましたが、このイメージ図どおりに書架の高さが今まで以上に、1階の部分も2階の部分も高くなるような話ですけれども、改修前の高さで改修後の高さの、書架の高さを教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

書架につきましては、開架を20万冊ということにいたしますので、スペースの関係もありますので高くなります。2階につきましては3.9メートル、それから、1階につきましては、全部ではございませんけれども、4メートル五、六十ということになりますので、高い部分につきましては、そのまま器具を使わないと届かないということになりますので、高い部分の書架を希望されるときには係員に指示をいただければ係員がお出しをするという形にしたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと補足をします。去る3月9日に建築基準法に基づく検査と消防法に基づく消防の検査、あわせて行っていただいております。最終的な確認というのは、出ていると思うんですけど、まだ私には届いていませんけれども、基本的に問題はないということを知っておりますので、そういう意味でいうと、法あるいは条例等についてきちんとなされていると。

私も数回そういう御指摘がありましたので参りました。ですので、高く積み上げてあるところについては、本の落下防止のものがあったりとか、キャットウォークが幅広くとってあって、仮に万が一それが落ちたにしても、下に落ちないようにガラスの構造物があって、それをちゃんとストップするという二重三重の防止策をとっているということは私も信用いたしておりますので、ぜひ御安心して御活用をしていただければありがたいかなと、かように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

手が届かないところは係員さんが脚立かなんか使ってとってくださいということでございますね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、本来なら教育部長が答弁すべき中身なんですけど、すみません、建築基準法に基づく検査は3月8日の、9日じゃございません。8日の間違いでした。慎んでおわびを申し上げたいと思います。

それで、先ほど手の届かない書籍については、係員の方に申し出ていただいて、そこからとるということになりますので、そういう意味でいうと、一般の方が手の届かないところに乗るといようなことは考えておりません。

もう1つちょっと申し上げたいのは、本もいろんな種類があって、すぐ手に届く、いわゆ

る人気のある本ですよ、平たく言えば人気のある本はなるべく手にとりやすい手元にあるということ、それと、児童図書等については、もう上背もありますので、そこは書庫、物すぐく書架が低くなっています。低くなっていて、子どもたちのスペース、1.4倍になるスペースの真横に置いてありますし、なかんずくそのスペースの真横には、赤ちゃん、読み聞かせ用の絵本であったりとか本が配置されているということになっていますので、場所場所にに応じてそういうふうにしめ細かく設定をしていますし、先ほど申しあげました届かないところというのは、基本的に今まで誰も借りたことがないようなものについて出しているということになりますので、もうぜひ御心配はなさらないで、ぜひ市民デーにね、3月30日にぜひまたお越しただいて、そのときにまた自分御自身のお考えをまとめるいいきっかけになるのかなと思いますので、ぜひ3月30日にはお越しをいただきたいというように思って——31日かな。（「31日です」と呼ぶ者あり）31日でしたね。このごろ、すみません、よく間違えて。3月31日です。午後から市民の皆さんたちに開放をいたしますので、開館前にね、ぜひお越しただければありがたいというふうに思っております。その際は私自身もいますので、石丸議員にしっかり説明をしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

今週の月曜日に図書館カード申請に行っていました。私はTカードを利用しないために普通のカードの更新という感じですがけれども、Tカードを利用しない人は現在のカードでよかわけですもんね。現在のカードを利用するため、そのままつくるために何で改めて申請せんばいかんとかかなと思って、現在ある利用者カードのデータを、もうそのまま使う人はそのまま移行するだけでよかったんじゃないかなと自分は思いました。

ちなみに、同意書を書きましたが、同意書をずっと、名前とか全部書いて、免許証を見せて、「免許証の番号を控えていいですか」と言わしたけん、「いかん」て言うぎんたもらわれんぎいかんけんにと、「はい」と言いました。免許証番号が何のため必要だったのかなと思いましたが、そこら辺何かわかりましたら、説明をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

今月号の市報にカードのことにつきまして記載をいたしております、このような形ですがけれども。（資料を示す）現在の図書利用カードにつきましても、これはそのまま使えるということになっております。ただ今回は、有効期限を設けるということにいたしておりますので、手続をお願いしているということでございます。

それから、本人の確認ですがけれども、本人確認は、御承知のとおり、免許証があれば一番

いいわけですし、そのほかにも健康保険証でありますとか、そういう本人を確認できる書類が必要だということで、免許証の番号までということで、石丸議員さんは番号の控えは要らないんじゃないかというお考えだというふうに推察をいたしましたけれども、番号をもって本人さんを確認するというにいたしましたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

私は単純に、免許証を見せれば本人確認ができるからそれでいいんじゃないかなと思ったわけですね。

私はTカードを使用しませんので、スターバックスの無料券やCD、DVDのレンタル券はもらいませんでしたが、これはCCC独自のサービスということでよろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

これはCCCのサービスでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

改めて個人情報とは図書館利用以外に利用されることはない、また、貸し出し履歴は返却時に削除されますという説明でありましたが、武雄市としては読書履歴は個人情報であるという認識でよいのでしょうか、改めてお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

本人が特定されるそのような情報であれば、それは個人情報だというふうに思います。私どもは、今回は本人にひもつかないものにつきましては、本人は同意の上ですけれども、少し説明させていただきますと、今回、図書館システム内の情報、それをポイントシステムへ幾ら行くのかと、どの程度の情報が行くのかということになりますけれども、4つございます。1つは、Tカードの番号でございます。それから、使用された年月日と時刻ですね、それからポイント数、この4つに限って提供するもので、本人が特定をされないということであり、かつ本人の同意も得ているということで、個人情報についてはしっかり守られるというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

次に、蘭学・企画展示室の今後の利用方針について伺います。

4月の図書館の指定管理者制度のスタートとあわせて歴史資料館の展示内容や展示方法の改善を行い、ますます充実されることと思いますが、今後、蘭学展示室の運営は歴史資料系の歴史展示と図書館側CCCの利用はどのようなバランスで考えておられるのでしょうか。

図書館・歴史資料館の複合施設としての誇るべき武雄の歴史の展示は、武雄市にとってこれからの人材育成やまちづくりのために極めて大切であり、展示を充実させ、市民の期待に応えるべき。また、蘭学・企画展示室の展示については、歴史資料系の展示利用を最優先すべきだと思いますが、新しい蘭学・企画展示施設の展示はどのように考えておられるのでしょうか、伺います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これもまた蘭学館をつぶしたとか、いわれのない差別的発言を多々受けておりますので、ここは正確にちょっとお答えしたいと思いますかね。

今度の条例改正で御可決いただいた蘭学・企画展示室ですよね、新しく蘭学・企画展示室は、今まで結構あいている、使わない時期がやっぱり長かったんですよ。長かったので、我々はこれじゃいかんということで、4月1日、月曜日、これはオープニングの日なんです、武雄鍋島家と蘭学ということで、これは極めて貴重な資料をお見せしたいというふうに思っています。もちろん保護はもう前提なんです、ちょうど今回、九州国立博物館で「江戸のサイエンス」、武雄鍋島家の近代科学が開催されるのに合わせて日本近代の出発点と衆目一致しています武雄の蘭学を紹介し、改めて武雄に残された貴重な蘭学資料を身近に感じられる展示を行いたいということを思っています。

そして、先ほど申したのが、4月1日から6月2日です。今度公募展をやろうと思っていて、6月15日から6月30日は、これについては公募規定で教育委員会のほうで決定をしていただくということになるかと思えます。

3つ目が、武雄と言えば温泉、焼物です。武雄鍋島家温泉焼物展を、これはまだ仮称なんですけれども、7月13日から8月15日まで行いたいということを思っています。

そして、これまだ仮置きなんです、せっかくこれ注目が多分全国から多くの方が、きょう何か僕がフェイスブックを見てたら、シンガポールからも多くの方が武雄図書館を見たいということが来ていますので、できれば8月24日土曜日から9月23日のところまで図書館展をやりたいということを思っています。これは、私どもが指し示す図書館像であったりとか、全国すぐれた図書館があります。これは直営でも指定管理者でもありますけれども、そういったものを一堂に会する、去年はフェイスブック学会をやりましたけど、じゃなくて、図書

館展をやりたいと、これは教育委員会と市で力をあわせて盛り立てていきたいなと思っております。

10月5日から11月10日までは武雄に残る絵図ですよね、絵図。これは伊能忠敬さんが、私はまだ会ったことないんですけれども、武雄を測量してから200年目に当たりますので、それを奇貨としてこういった展示を行うということ、それと、11月16日から12月1日は、第2回の公募展を開催していくということになります。そして、ことしの目玉は、南砺市と私も、議会も南砺市に行っていてお願いをさせていただいて、そこで棟方志功展、南砺にしばらく疎開をされていたと、もちろん青森の御出身の日本を代表する版画家、画家であるんですけれども、その方が南砺市で大量の作品を、しかも、今まで見せたこともないような作品を、それを中心に棟方志功展を12月14日土曜日から1月13日祝日まで行くと、これは年末年始はもう関係ありません。ですので、棟方志功展が恐らくことしの一つの大きな、これも自治体連携なんです。自治体連携がうまくいっていて、これは武雄市議会に本当に感謝したいんですけれども、南砺市さんも武雄市議会を物すごく評価をさせていただいて、あの武雄市議会にないばということで貸してくださるといふことだそうです。

それと、これが最後にしますけれども、2月1日、来年2月1日から3月16日まで、これ特別企画展ということで武雄の蘭学、九州の蘭学ということで展示を行っているということになりますので、今まで以上に展示を拡充するというのは前々からお約束していたとおりでありますし、それとあわせて、私どもとしては、今のメディアホールの部分を活用して、いろんな講演会とか講習会をやっていくということは、これはCCCと力を合わせてやっていきたいと思っておりますので、切れ目なく武雄からいろんな情報の発信であるとか、蘭学を中心にした情報の発信、情報の共有ということを行ってまいりたいと、このように考えております。

あわせて、そういった展示物があるときは、今までできなかったんですけれども、武雄の図書館に入ったところにその特集コーナーをつくりたい。特集コーナーをつくって、図書館と蘭学・企画展示室がちゃんと連動するように、せっかくスペースが同じところにありますので、連動するように、連携するように仕掛けをしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

指定管理料は当初の予算の段階に積算したものでございますが、改修効果や民間のノウハウを活用した節減等により、実際の必要経費は毎年減ることが予想されますが、指定管理者の経営努力もあります。最小の経費で最大の効果をとられている市の財政の立場から言えば、指定管理を5年間の固定ではなく、年次年度で、次年度以降は実績で再計算をしていく

べきではないかと思いますが、教育委員会としてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはちょっと指定管理者そのものですので、担当がちょっとこれは市長部局になりますので、私からちょっと答弁をお許しいただければと思うんですけども、基本的に指定管理者のルールで、例えば3年なら3年、通常5年なんですけれども、5年で、決まっているんですよ、それ、そういうふうに。これはもう再三説明しております。ですので、決まっておりますので、今般CCCのほうに年間1億1,000万円ということでお渡しをするということになります。

ですので、そういう意味でいうと、我々は法治国家ですので、ルールに基づいて粛々とやるということが行政の最大の役割の一つでありますので、それに基づいて行っております。確かにお気持ちはわかるんですよ。1億1,000万円していたら、例えば9,000万円で済んだといたら、それは9,000万円にすればいいじゃないか、これ逆もあるんですよ、1億1,000万円できていて、例えば1億3,000万円かかったからとなると、それは市にとってどっちが有利か不利かというのは一概に言えない話なんですよね、市にとって。ですので、私は法で定められているとおり、やっぱり例えば3年間なら3年間、うちは今回5年なんですけれども、年間1億1,000万円ということについては、ベストじゃないかもしれないけれども、妥当であるというふうに判断をしております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸 定君）〔登壇〕

最後に、4月1日の新しい図書館のオープン後の図書館運営につきましては、公立図書館の本来のあり方について関係者や市民の意見を聞いてもっと広く慎重に議論しながら、よりよい方向に進めていただけることをお願いいたしまして、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で8番石丸議員の質問を終了させていただきます。